

事務事業名		清水山手線道路改良事業		☒ 実施計画登載事業 ☐ 総合戦略登載事業																															
政策体系	政策名	潤いに満ちた快適な都市環境の創造		事業期間																															
	施策名	20良好な生活空間の創造		☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 (開始 年度～)																															
	基本事業名	01生活道路の整備		☒ 期間限定複数年度 【計画期間】 28 年度～ 30 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入																															
根拠法令				予算科目																															
所 属	部課名	都市整備部建設課		会計 款 項 目 事業 01 08 02 03 70																															
	課長名	阿部博基		事務事業区分																															
	係 名	土木係	電話 0192-27-3111	A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(A～D以外)																															
	担当者	西村友和	内線 313																																
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)																															
清水山手線は、沿線に防災集団移転地(清水地区)が建設され、地域を縦断し、主要地方道大船渡綾里三陸線(以下「県道」)から山側に伸びる市道が多数接続する重要路線であるが、起点は県道急カーブに接続しているため見通しが悪く、終点は県道が間近であるにも関わらず別路線を経由しなければならないため不便な状況にある。よって、起点は急カーブ位置を避け、終点は県道へダイレクトに接続させることにより安全性・利便性の向上を図る。 本路線の整備は延長L=198m幅員W=5.0mとする。 【計画期間】 ・測量調査設計(一式) 平成28年度、用地補償A=1434m ² 平成29年度、工事施工L=198m 平成30年度 本事業の完了は平成30年度の予定である。 事業費は委託費、土地購入費、補償費、工事費、事務費として支出される。				総投入量 (千円) <table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>国庫支出金</td> <td>64,640</td> </tr> <tr> <td>財源内訳</td> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>一般財源</td> <td>40,271</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>事業費計(A)</td> <td>104,911</td> </tr> <tr> <td></td> <td>正規職員従事人数</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td></td> <td>延べ業務時間</td> <td>892</td> </tr> <tr> <td></td> <td>人件費計(B)</td> <td>3,568</td> </tr> <tr> <td></td> <td>トータルコスト(A)+(B)</td> <td>108,479</td> </tr> </table>		事業費	国庫支出金	64,640	財源内訳	都道府県支出金			地方債			その他			一般財源	40,271	人件費	事業費計(A)	104,911		正規職員従事人数	8		延べ業務時間	892		人件費計(B)	3,568		トータルコスト(A)+(B)	108,479
事業費	国庫支出金	64,640																																	
財源内訳	都道府県支出金																																		
	地方債																																		
	その他																																		
	一般財源	40,271																																	
人件費	事業費計(A)	104,911																																	
	正規職員従事人数	8																																	
	延べ業務時間	892																																	
	人件費計(B)	3,568																																	
	トータルコスト(A)+(B)	108,479																																	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

用地補償A=1434m²

今年度計画(今年度に計画している主な活動)

工事施工L=198m

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

市道清水山手線、沿線住民

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

交差点の見通しが改善される。安全性・利便性の向上。

④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)

安全で快適に移動および活動できる。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア 用地買収面積	m ²
イ 施工延長	m
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ 計画総延長	m
キ 主たる利用者数	人
ク	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ 十分な幅員で舗装された供用開始道路延長	m
シ 整備率(計画区間整備済延長/計画総延長)	%
ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)
投入量	事業費	単位							
		国庫支出金	千 円		8,012	31,358	25,270		
		都道府県支出金	千 円						
		地方債	千 円						
		その他	千 円						
		一般財源	千 円		5,342	18,079	16,850		
	事業費計 (A)		千 円	0	13,354	49,437	42,120	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人		2	4	2		
		延べ業務時間	時 間		192	240	460		
		人件費計 (B)	千 円	0	768	960	1,840	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千 円	0	14,122	50,397	43,960	0	0	
⑤活動指標		ア	m ²		0	1434			
		イ	m		0	0	198		
		ウ							
⑥対象指標		カ	m		0	0	198		
		キ	人		33	33	33		
		ク							
⑦成果指標		サ	m		0	0	198		
		シ	%			0	100		
		ス							

事務事業ID	1574	事務事業名	清水山手線道路改良事業
--------	------	-------	-------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

地域を縦断し、主要地方道大船渡綾里三陸線から山手に伸びる市道が多数接続する重要路線である。起点は急カーブ位置を避け、終点は県道へダイレクトに接続させることにより安全性・利便性の向上を図る。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

起点は県道急カーブに接続しているため見通しが悪く、終点は県道が間近であるにも関わらず別路線を経由しなければならないため不便な状況にある。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

交差点の安全および利便性の向上を要望されている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	改良整備により安全快適に利用できるので、都市環境の向上につながる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	公共施設の道路改良は、行政が行うことが妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	この事業により利用者が安全に利用できるようになるため適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	十分な幅員で舗装された道路計画延長となっていることから、これ以上の向上余地が認められない(年度ごとの実績はあるが、全区間の整備を行わなければ、この事業の目的が達成されない)。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	安全で快適に利用できない。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	必要最小限の費用で実施していることから、削減の余地は無い。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	必要最小限で対応していることから、削減の余地は無い。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	一般に供する道路であることから受益者負担になじまない。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果																						
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止		平成30年度の事業完了に向け、事業を推進する。 左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし																								

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	平成30年度(繰越)の事業完了に向け、事業を推進する。